

モバイル向け加工装置

海外生産急ピッチ

FUK、中韓で調達進む

FUK（奈良県御所市、植村光生社長、0745・63・0101）は、スマートフォン（多機能携帯電話）やモバイル端末向けのフィルムやガラスの加工・貼り付け装置の生産グローバル化を急ぐ。開発拠点の本社工場と台湾の合弁会社を足がかりに、中国などの協力企業と連携、部材調達から生産、組み立てなどを分業化する。国内の本社工場は開発と高機能機器の生産に集中させ、機能やコストに応じた製品の最適供給を目指す。

台湾の合弁会社は2011年5月に設立したFUK台湾（台北市）。資本金100万台湾ドル（約300万円）でFUK35%、台湾現地資本65%の出資。現在6人体制でFUK製品のアフターサービ

スやメンテナンス、小型装置の製作、販売なども行う。12年1月には中国・深圳にFUK台湾の関連会社が出資してFUKチャイナを設立。価格が100万～300万円クラスの低位機種を順次、FUKチャイナに生産を移す。今後の受注増が見込めることから、日本の半導体メーカー、テレビメーカーの現地協力会社の活用も検討する。また中国に加え、韓国、ベトナムからの部材調達を進める。製品開発で協力関

係にある第一実業のネットワークも活用する。FUKは03年5月の設立。3年前に特許取得した大気下で気泡の入らないフィルムやガラス貼り付け装置などが好調で11年5月期の売上高は10億円。ユーザーのスマートフォンやモバイル関連機器の生産は台湾、韓国、中国メーカーなどが先行し、超円高対応もありグローバル展開が必至となっている。